

令和5年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会 議事録

【日 時】 令和5年8月7日(月) 14:00 ~ 15:40

【場 所】 石狩市庁議室

【出席者】 12名(16名中)

役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠	役職	氏名	出欠
会長	角川 幸治		委員	後藤 芳子	×	委員	新居 久美子	×
副会長	竹口 尊		委員	獅子内 彰	○	委員	野村 彩夏	
委員	秋田谷 順子		委員	白井 かの子	○	委員	林 俊樹	
委員	神林 周二	×	委員	住吉 赴夫	○	委員	林 美香子	
委員	河野 明美		委員	高宮 則夫				
委員	小山 玲子	×	委員	中野 勝也				

正副会長を除き、あいうえお順

【オガ-パ-】北海道石狩振興局地域創生部長 矢野 敦子、地域振興係長 松原 祐樹

【事務局】企画経済部長 小鷹 雅晴、企画課長 宇野 博徳
企画課主査 芳賀 武士、企画課主任 山崎 将平

【傍聴者】1名

【角川会長】

本日は、時節柄お忙しいところ、ご出席をいただき、誠にありがとうございます。

定刻となりましたので、ただいまから「令和5年度第1回石狩市総合戦略推進懇話会」を開催いたします。今年度初めての懇話会ということなのですが、引き続き私のほうで進めさせていただきますので、どうぞよろしく願いいたします。

本日、後藤委員、新居委員、神林委員、小山委員が欠席です。今年度初めてということなのですが、前回昨年度までは、コロナ禍ということもありまして、中々思うような懇話会ができていなかったかなというふうに思います。回数も削減されたりですね、年度で1回2回くらいしか開催できない、色々な弊害等あったのですが、それでも継続して、ずっとやってこられたというのは良かったかなという風に思います。

皆さんご存じのように、コロナが5類になりまして、いろんな活動がまた活発に行われております。まずは、この5月に選挙がありまして、加藤市長が二期目スタートされたということと、市議会議員も新しいメンバーも入ったところで、このメンバーの中に入っております、鈴木圭一さんがですね、めでたく市議会議員になったということで懇話会を抜けたのですが、住吉さんが新しいメンバーということで就任されましたので、後程挨拶いただきたいと思います。

さて、いろんなイベント等が活発に行われていますし、こういった懇話会だとか、審議会も本当に数年前どおり復活をしているということで、いろんなことが動き始めております。同時に物価高もありますし、人手不足等は相変わらず解消されていないどころかますます大変な状況になっているなというところですが、その反面、給料が民間のほうはなかなか上がらないということがございます。

その中で、石狩市としましては、洋上風力のほうで活発な動きを見せていますし、新港地域を中心にかなり新しい流れも出来てきている、なかなか全国のレベルで見ても明るい話題が多いのではないかとこのように思っております。

この懇話会も、毎回皆様方のおかげでいろいろな良いご意見を、前向きなご意見を頂戴しているのです

が、私自身も会長として、何期やりましたかね、7、8年やらしていただいている感じなんですけど、はっきりしなくて申し訳ないんですけど。いろんな議論の中で、まとめ役ってことやらせていただいているんですけど、年々すごくポジティブっていうか、前向きな意見が出ていますし、夢のある未来を感じさせるお話が多いなっていうふうに、私も感想を持っているんですけど、それをより実現させる形にしたいっていう思いは、これは私だけではなく、皆さんもお持ちだというふうに思っております。

そのためには何ができるかということで、具体的な動き、もちろん、これが行政の方だけに任しておくべきではなくて、民間団体であったり、民間会社であったり、企業であったり、あといろんな商工会議所等を含めて、色々な諸団体が、それこそ、俺が俺が、ではなくてですね、協力体制をしっかりと作り上げて、具体的な形に、アクションにしていくっていうことが一番重要なことというふうに思っております。いろんな問題も、もちろんありますし、財政的なものもありますけども、そういったことを一つとクリアしながら、積み上げていけば必ず、良い形となって表れてくるというふうに思っていますので、手始めというか、基礎となる部分で、こういう審議会とか懇話会はあるのかなというふうに私も日々思っておりますので、ぜひ今日も1時間半ぐらい、3時半ぐらいまでの短い時間になっておりますけども、ぜひここにいる皆さん全員からご意見を頂戴できるような環境にしていくのが私のつとめだと思っておりますので、今日も一日どうぞよろしく願いいたします。

それではまず、小鷹部長より一言ご挨拶を頂戴します。

【事務局（小鷹部長）】

本日は皆さんお忙しい中、このようにお集まりいただきまして、ありがとうございます。

また、日頃より市の行政にはご理解、また、ご協力をいただき改めてお礼申し上げたいと存じます。

令和元年度に策定いたしました本日議題となっております第2期総合戦略でございますけれども、こちら令和2年から令和6年までの5か年計画となっております。

開始3年度目となります令和4年度は、今会長からお話ありましたようにですね、新型コロナウイルスの感染が収束しなかったものの、感染拡大防止のために規模の縮小、あるいは感染対策を行ったうえで各種イベント等を行ったところでございまして、交流人口数、あるいはイベントの開催状況は回復傾向となっております。

市といたしましては、こういった情勢を踏まえ、引き続き、地方創生に取り組んでまいりたいと考えております。

地域の皆様が安心して暮らしていける街づくり、あるいは経済を開く街づくりを行うためにも、皆様には様々な視点から、闊達なご議論、ご評価をいただきたいと考えておりますので、皆様どうぞよろしく願いいたします。

【角川会長】

お願いいたします。

それでは次第に沿って進めてまいります。資料の方はよろしかったですか、不備等ありましたら、言っていたきたいと思います。

それでは、事務局から説明をお願いします。

【事務局（宇野課長）】

事務局の宇野でございます。今年度もよろしく願いいたします。

最初に、委員の変更についてご報告いたします。株式会社イシカンの代表取締役 鈴木 圭一 様が委

員を辞退され、新たに税理士法人すみよし会計総合事務所の代表社員 住吉 赴夫(すみよし たけお)様が就任されました。もしよろしければ、その場で一言ご挨拶いただければと思います。

【住吉委員】

皆様、こんにちは、お疲れ様です。私、今回からこの総合戦略懇話会のメンバーの一員として関わらせていただきます。私自身は簡単に申しますと、31歳か32歳頃に石狩青年会議所に入会しまして、もともとは札幌だったんですけども、初めて石狩と携わらせていただきました。その中でも理事長をやらせていただきまして、石狩市のことを深く考える機会もありまして、どうやったら石狩市の発展につながるかを考えたときに、そこに住む人たちがいかに石狩のことを好きになってくれるかということを中心に活動させていただきました。

総合戦略の中でも石狩市が好きと感じる市民の割合というところがあって、80%近くが「ある」ということで、みんな石狩のことが好きなのだということを感じさせていただきました。その割には、住み続けたいという人は77%と下がっているということで、これは連動してないのかなと、反省しております。こういう僕の石狩青年会議所の活動で得た知識、そして税理士としての企業の観点に立った考え方を基に、少しでもお力になればと思っております。引き続きどうぞよろしくお願いいたします。

【事務局(宇野課長)】

住吉委員、ありがとうございました。

続きまして、本日オブザーバーとして出席をいただいております、北海道石狩振興局地域創生部長の矢野敦子様です。一言よろしくお願いいたします。

【オブザーバー(北海道石狩振興局地域創生部長 矢野氏)】

石狩振興局地域創生部長の矢野と申します。よろしくお願いいたします。

私のほうは、今年の6月からこの職につきまして、いろいろと勉強している最中で、この総合戦略、今回オブザーバーという立場で参加させていただいているところなんですけれども、石狩市は全道で見ても、先ほど会長のご挨拶にもあったように前向きなところ、先駆的なところでもありまして、プラスの要素がいっぱいあるところだと感じているところなので、今後の5年間の計画の進捗を踏まえて、またどんどん良いところを見ていけたらなと思いますので、よろしくお願いいたします。

【事務局(宇野課長)】

ありがとうございました。

同じく、石狩振興局地域創生部地域政策課主査の松原祐樹様でございます。

次に、石狩市の事務局の職員をご紹介します。企画課主査芳賀です。同じく企画課の山崎でございます。事務局メンバーは以上でございますので、よろしくお願いいたします。

それと、議事に入る前なんですけれども、会議録作成に関することございまして、昨年度に引き続き全文筆記とさせていただきたいと思っておりますので、ご了解いただければと思います。それと今日の議事録は、書き起こしシステムというものを導入してございまして、マイクで話した音声をパソコンに取り込んで、自動的に文字を起こしていくというシステムでございます。したがって、皆様のご発言の際は大変恐縮なのですが、必ずマイクをオンにして、ご発言をいただければと思っています。よろしくお願いいたします。

これで事務局からは以上でございます。以降の議事進行につきましては、角川会長のほうからお願いしたいと思います。それでは会長よろしくお願いいたします。

【角川会長】

よろしく申し上げます。

それでは早速なんですけれども、次第に沿って進めてまいります。次第2 総合戦略推進懇話会についてということで、こちらは引き続き事務局のほうから申し上げます。

【事務局（芳賀主査）】

企画課の芳賀と申します。着席したまま失礼いたします。説明させていただきます。

それでは、お手持ちの資料のご確認をお願いいたします。

まずは本日の懇親会の次第です。

次第がありまして、次に資料1、総合戦略推進懇話会（令和5年度）です。

次に資料2、総合戦略推進懇話会の委員名簿です。

次に資料3、第2期総合戦略 令和4年度実績概要という、1枚ものの両面です。

次に資料4、第2期総合戦略 令和4年度実施事業一覧。A3で複数枚にわたっているものです。

あとは、事前にお渡ししている冊子の第2期石狩市まち・ひと・しごと総合戦略。

それでは、資料に沿ってご説明させていただきます。資料1をご覧ください。

本懇話会は、広く、関係者の意見を反映し、総合戦略の効率的・効果的な推進を図ることを目的とし、市の設置する『総合戦略推進本部会議』から、総合戦略の進行状況等の報告を受け、必要な助言や提案を行うこと等が懇話会の役割でございます。

懇話会委員の任期は2年間となっております。皆様には、令和4年度、令和5年度の委員としてご就任いただいております。

現行の第2期総合戦略の計画期間は令和2年度から令和6年度までの5年間となっております。本日の懇話会では、昨年度、令和4年度に実施した事業について、検証、評価を行っていただきたいと存じます。

次に、スケジュールについてですが、懇話会のスケジュールといたしましては、本日、1回目の懇話会を開催し、2回目は、10月から11月頃に、市内の施設見学会を予定しており、開催についてはあらためてご連絡を申し上げます。

懇話会と連動し、以下、「総合戦略推進本部会議」、「市の各所管」については、懇話会からの意見を踏まえ、事業の評価、必要な見直しを行い、次の事業計画、実施へ繋げて参ります。

資料2は今期、懇話会の名簿となっております。以上です。

【角川会長】

それでは、今、事務局が説明ございました内容につきまして、何か質問等ございますでしょうか。

< 質問無し >

【角川会長】

よろしかったですか。それでは先に進めて参ります。

次第の3です。

令和4年度の実施事業の評価についてということになります。こちら引き続き事務局から説明をお願いいたします。

【事務局（芳賀主査）】

資料3については、一部修正があり、修正部分を赤字で記載しており、修正後の資料を机上に置いておりますので、そちらの令和4年度、実績概要をご覧ください。

第2期総合戦略では、第2期総合戦略の最終年度である、令和6年度の「数値目標」として、6つの戦略目標ごとに、2つの指標を設定しています。そして、この指標を達成するための、具体的な「65」の施策と「重要業績評価指標（KPI）」を設定しております。

本日の懇話会では、具体的な65施策の取組状況について評価をしていただきますが、はじめに、12の数値目標の現状と、KPIについて、概要をご説明いたします。「1.戦略目標別数値目標の進捗状況について」をご覧ください。こちらの資料は、6つの戦略目標ごとに、計12の数値目標につきまして、令和4年度末までの状況をまとめたものになります。

12ある指標のうち、令和4年度末時点では、の「地域活動に関わりをもつ新現役世代の人数」、の「年少人口」、の「市内産業売上高」、の「転入・転出者の均衡」、の「年度末の人口」の5指標（約4割）が達成の状況、それ以外の7指標（約6割）が、まだ、未達成の状況となっております。

未達成の指標のうち、人との接触などいわゆる「3密」を伴う指標（、、）につきましては、令和3年度と同様、新型コロナウイルス感染症の影響があり、特にの「交流人口数」につきましては、前年度と比べて回復はしたものの、その影響が大きいと考えております。

なお、の「市内産業売上高」の数値につきましては、本年7月26日時点の数値であり、暫定値であることを申し添えます。

次に、「2.施策別重要業績評価指標（KPI）の実績について」をご覧ください。

具体的な取り組み、全65項目のうち、「KPIをすでに達成している」S評価は11項目（17%）、「KPIの達成に向け、着実に取り組まれている」A評価のものは47項目（72%）、「KPIの達成に向け、事業の改善や見直し等が必要である」B評価のものは7項目（11%）となっております。

S又はA評価は、全65項目中、58項目で、全体の約9割となり（前年度65%）新型コロナウイルス感染症の影響を受けた項目はあるものの、概ね良好な進捗状況と言えるのではないかと考えております。

実績概要についての説明は以上です。

【角川会長】

実施事業の点検について質問、ご意見等ございますでしょうか。

< 質問無し >

【角川会長】

コロナがあったということで、数字的には厳しい部分もあったとは思いますが、私の感想としては、そのわりには、と言ったらなんですけども、よく頑張っているな、というか、動いているな、という感じは印象として受けます。

それでは、先に進めてまいります。

ここからが本日の主な議事となります「重要業績評価指標：KPI：65項目」について、懇話会としての評価をしていきたいと思っておりますので、毎回ここが肝となっているのですけれども、宜しく願いいたします。

評価の仕方についてですが、市役所、担当課の評価に対して、意見のあった項目につきましては、その都度、懇話会としての評価を決定していきます。

また、特にご意見等がなかった項目につきましては、担当課の評価どおりと決定していきたいと思っておりますが、積極的にご意見を頂戴して、より良い物になるようにしていきたいと思っておりますので、よろしく

お願いします。

それでは、引き続き、事務局から説明願います。

【事務局（山崎主任）】

続きまして、資料4「第2期総合戦略 令和4年度実施事業一覧」についてですが、こちらにも、一部修正があり、修正部分を赤字で記載しており、修正後の資料を机上に置いておりますので、そちらをご覧ください。

時間の関係もございますので、主な取組や、評価の概要をご説明させていただきます。

こちらの資料は、6つの戦略目標ごとの具体的な施策について設定した、重要業績評価指標（KPI）について、令和4年度の「実績値」及び「実績内容」、「令和5年度の予定」、「担当課の評価」を記載したものに なります。

懇話会委員の皆様には、懇話会としての評価が「担当課の評価どおり」でよろしければ「A」を、「見直しが必要」であれば「B」というようにご評価いただきたいと思います。

戦略目標の1と2、3と4、5と6、のように2つずつ区切って、説明して参りますのでどうぞ宜しくお願いいたします。

それでは、「戦略目標1『新現役世代が活躍する』」について、ご説明いたします。資料は1～2ページ、番号は1～10の10項目になります。

戦略目標1全体をとおして、担当課評価はAが8項目、Bが2項目となりました。なおS評価は目標を既に達成したもの、A評価はKPIの達成に向け、事業が着実に取り組まれているもの、B評価はKPIの達成に向け、事業の改善や見直しが必要であるものといった評価です。

全体としては新型コロナウイルス感染対策を行ったうえで、各種イベントが行われるようになったこともあり、1番「石狩市民カレッジ」や4番「高齢者ふれあいサロン」、5番「認知症カフェの参加者数」が回復しております。また、屋外で距離が十分に確保できるウォーキングイベントは、昨年に引き続き開催し、多くの人が参加しています。

一方、7番、8番のカローリングのような屋内のスポーツ大会は、延期や中止せざるを得ず、数値としては少ないものとなっています。

令和5年度におきまして、人が多く集まる行事についての規制緩和があるものの、その中でも感染防止対策を講じた上で、開催を検討することとしています。

次に「戦略目標2『子育て力』をさらに発揮する」についてです。資料は3～4ページ、番号は11～18の8項目になります。

戦略目標2全体を通して、担当課評価はSが2項目、Aが5項目、Bが1項目となりました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、11番「婚活事業」や16番「図書館まつり」は中止となりました。

一方で、市民図書館で実施している「科学の祭典」は、子どもたちや市民に科学を楽しんでもらうイベントとして毎年実施していますが、令和2年度からは、webで開催し、科学動画を配信するなど、コロナ禍に対応し、形を変えて実施しております。

12～14番は企画課で実施している「結婚新生活支援事業」です。

若者の結婚の希望を叶え、少子化対策や市内への移住を促進するため、新婚世帯の住居費、及び引越費用の一部を補助するものですが、令和4年度は補助内容にリフォーム費用を追加し、29歳以下は賃貸についても上限額を30万円から最大60万円へ拡充して実施し、多くの新婚世帯を支援いたしました。KPIにつきましても、概ね順調と評価しております。

17番のKPI「待機児童数通年0人」ですが、令和4年度実績は0人となっています。こちらは、令和5

年1月1日現在の人数を計上しており、令和4年度は1年を通して0人でしたので、単年度としては目標達成：S評価としております。

単年度はS評価となっておりますが、目標は引き続き通年0人の継続とし、取組を続けて参りたいと思います。

戦略目標1、2につきましては、以上です。

【角川会長】

はい。ありがとうございます。それでは、戦略目標1「新現役世代が活躍する」、戦略目標2「子育て力をさらに発揮する」、この2つに関しまして、まず皆様方のご意見、ご質問等を伺いたいと思います。いかがでしょうか。

高宮さんお願いします。

【高宮委員】

高宮ですけれども、昨年聞いていたかもありませんけど、もう一度確認させてください。

S、A、Bの付け方です。いわゆるKPIということでしょうけれども、例えば1番、15,000人がKPIの目標ですと。それで令和4年が1,654人、トータル3,780人、これを見ると、15,000人からは25%の状況です。これが順調に進んでいるという、「A」についていますが、ということは、5、6年でトータル15,000人になる予定であると考えてよろしいのでしょうか。その辺を聞きたいと思います。

【事務局（宇野課長）】

ただいまの高宮委員のご質問でございますけれども、これにつきましては、この3年間のトータルでいきますと、確かにちょっと15,000人からは、少し離れているというところでございますけれども、これは計画期間中であるという点と、それと手法や方法につきましては、市民にPRをしつつ、またカレッジのあるいは出前講座の中身も色々工夫をしながら、より多くのを市民に受講していただくような環境を前向きに努力して続けているという観点から、この評価については「A」ということになってございまして、確かに数字だけを見ると、少し厳しい部分もありますが、それに向かって、今は計画期間中で少なくとも目指しながら、がんばっているという状況の中で、この「A」という評価をつけさせていただいてございます。以上です。

【高宮委員】

そういった意味であればですね、その取組内容にやはり何をアップロードしなければならないか、つまりこれを「S」にするために、どういう取組を変えていくかというのを少し明確にしないと、この文章だけみて「A」というのは担当者の考え1つかなというふうに思ってしまうんです。それが全体の中に散らばっているものですから、委員の皆さん方がどうして「A」なのかと、それから「S」についても、やり終えてしまったのか、これでいいのか、もっとグレードアップする必要がないのかというのが、もう少しこの取り組み内容の中にあってもいいかなということを感じております。

もしできれば、こういった数字のところではこういった努力してやって、「A」になっていくのかをお話していただければなという感想を持っております。

【事務局（宇野課長）】

ありがとうございます。

今のご意見につきましては、我々も企画課として、担当課から評価は上がってきたときに、我々もなるべく客観的な視点で、最終的には評価をさせていただいてございます。それと、今ご意見いただいたように、実際、何をどう努力したのかということが分かりやすくしたほうがいいというご意見ですので、それを踏まえて、担当課とも話をしながら盛り込めるようにしたいというふうに検討したいと考えてございます。以上です。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。確かに、あの KPI となると、どこまでその数字を近づけたか、あるいは到達できたかってところを見てしまうので、これは1番だけじゃなく、全体的にやっぱりそうなっていますよね。残り二年間で半分もいってないって、当初目標からですね。ただ、やはり KPI を設定した時期がコロナ初期かその前かというぐらいだと思うので、どうしてもちょっと厳しいところあるんですけど、やはり高宮委員がおっしゃったように、中身というか、中身の努力というか、定量よりも定性的な部分を、もう少し記載したほうがいいのではないかと、私も少しそう思いましたので、ぜひその部分も加味していただければなというふうに思っております。

そのほかいかがでしょうか。

この「新現役世代」というのは、この懇話会で作った言葉ですが、今までの知見や経験を活かしながら、ベテランの方々にもっともっと活躍していただきたいということで、生み出した言葉の一つなのですが、竹口副会長、ちょっとお尋ねしたいのですが、新型コロナウイルスが5類になったということで、さまざまな制限等が今緩和されて、講座だとか、高齢者の皆様のふれあいのサロンといった活動も徐々に復活してきているんじゃないかなというふうに思うんですけど、現状地域の今の感じというか、影響なんかどのような感じでしょうか。

【竹口副会長】

お答えいたします。

2類相当から5類に変わったということで、一般的な活動は顕著になっているんですけども、道内のコロナの感染状況が低くはなっていますが、高齢者に対する会合は、従来と同じく、コロナ発生時のように、今まで週3回会合していたのですが、週1回の2時間に限定しています。もう少し様子を見ようと、特に高齢者が対象でございますので、そういう状況にあります。

それから市民カレッジにつきまして、他の市町村のカレッジから見ると、若干内容が偏っている感じがします。石狩市の歴史とかそういうことが中心となっていますけども、もう少し新世代の方たちが興味を持てる講座内容を検討すべきかなと思います。私も最初は参加していましたが、現在退会しまして、自分自身と、将来について、あるいは現状についての生活から、あまり参考にならないなという講座が多すぎるんじゃないかということで、なかなかこの受講者も大きく増えないというのが現状ではないかという、この辺の回答は関係部課のほうにアピールする手段ではないかと思います。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。ただし、活動はずっと続けているってことで、規模は縮小していたんですが、それはすごく前向きでいいことかなというふうに思っています。

戦略目標2の「子育て力」ということですが、結婚、子育てのほう、うちもそうなんですけども、秋田谷委員、こちらちょっと、何かありましたらお願いしたいのですが。

【秋田谷委員】

はい。秋田谷です。よろしくお願いします。子育て世代ということで、私、小学生の娘が2人いるんですけれども、やはりこのコロナ禍で一番犠牲になったのは子どもたちかな、と思っております。

5類に移行してから、子ども会の活動とか学校の行事ですとか、通常どおりに戻るような感じにはなっていないのですが、私たちの3年、4年と、子どもたちの3年、4年って全然時の流れが違ってきているのですが、私たちが3年、4年と、子どもたちの3年、4年って全然時の流れが違ってきているのですが、コロナ禍の初めには低学年だった子ども、今は高学年になっていまして、できることがどんどん増えていっているはずなのに、ぽっかりと間が空いてしまったゆえに、通常どおりの流れに戻れてない部分もあると思います。特に子ども会では感じることでですね。その年で高学年の子たちの動きを見て、その下の世代が次は私達がリーダーになって何かをやろうと思えていたんでしょうけれども、その見本となる上級生がいない状態で、今高学年になってしまったので、それを通常の流れに戻すのはとても大変かなと思います。

ただ、学校のほうに関しては通常どおりに戻ってきている感じがして、今年から学校のプールも再開されて、子どもたちはやはりどの世代もとても楽しそうに、生き生きとしているので、このままコロナも、もっともっと落ち着いていってほしいなと願うだけです。すいません。なんか話合ってたかかもしれませんが、私の最近の感じることはそういう感じです。

【角川会長】

はい。ありがとうございます。私も小学生2人ですが、この3年間は大きかったです。3年4年というのは。確かに、秋田谷委員がおっしゃったように戻りつつあるんですけど、やはりこの3年で、なんかちょっとおかしな部分っていうか、通常でない部分っていうのは、自分の子どもを見ても分かるんですよ。そういうところが出てきているよって、今までなかったケースですから。

本当に可哀相だったんですけども、これからこれをいかに戻していくか、そして、前に進めていくかということだと思っております。

ほか、この戦略目標1と2に関して何かございますか。

<委員からの質問無し>

【角川会長】

最後までまた戻っていただいても構いませんので、今なければ3と4のほうに進めさせていただきたいと思っております。

【事務局（山崎主任）】

次に「戦略目標3『地域資源』からモノやしごとを創る」について、資料は4ページから8ページ、番号は19～35の17項目になります。

戦略目標3全体をとおして、担当課評価は、Sが2項目、Aが13項目、Bが2項目となりました。

23番「地場農産品販売額」につきましては、令和元年に「いしかり災害時対応ファーマーズ・マーケット」として石狩振興局の認定を受けた「とれのさと」が、令和2年度の施設のリニューアルや築ごもり需要により、売上げを伸ばしている、と聞いているところです。

25番につきましては、おとし「加工品の開発数5年間で5件」から、「5年間で30件」に上方修正したところですが、令和4年度に14件を新たに開発し、目標を再度達成したことから、S評価となっています。担当課からは今後も開発数が見込めると聞いていることから、KPIを「5年間で30件」から、「5年間で40件」に上方修正したいと考えております。

33～35番につきましては、石狩湾新港、石狩湾新港地域に係る取組ですが、物流関連ゾーンの新規立地企業が令和4年度に19件となり、5年間の目標を達成したほか、今年3月に営業運転を開始した石狩バ

イオエナジー合同会社の発電所を1件としているところで、引き続き石狩湾新港、石狩湾新港地域のメリットをPRし、誘致活動を続けます。なお、33番につきましては担当課より毎年10件程度の新規立地企業を目指す、と確認していることから、KPIを「5年間で50社」から、「5年間で80社」に上方修正したいと考えております。

次に「戦略目標4『いろんな顔』をつくる」について、資料は8～10ページ、番号は36～42の7項目になります。

戦略目標4全体を通して、担当課評価はSが1項目、Aが6項目となりました。

36番「海水浴場」につきましては、令和4年度につきましても感染対策を講じ、監視員を確保したうえで開設し、多くの入込がございました。また、サイクリング事業につきまして、藤女子大学の生徒たちが作成した市内散走のプランが石狩サイクルナビに掲載されており、当市を訪れるサイクリストに活用されています。

37番「道の駅」につきまして、感染対策の影響を受けながらも、イベントの実施やデジタルマップの作製などにより誘客を図り、道の駅の年間目標40万人を超え、好調ということ聞いております。

また40番「販路拡大の取組」につきましては、三笠高校調理部を迎えたイベントにて農畜産物の知名度向上を図ったほか、道の駅等のイベントに出展し、販路の拡大に取り組んでいます。また、三笠高校調理部を迎えたイベントでは藤女子大学の生徒たちが、広報・運営担当として対応してくれたと伺っているところです。

戦略目標3、4につきましては以上です。

【角川会長】

はい。ありがとうございます。

それでは、選択目標3と4なのですが、「3『地域資源』からモノやしごとを作る」ということで、こちら、私が冒頭お話ししましたように、今の石狩市としては勢いがあるということで、KPIに関してもいい数字が出ていますけれども、こちらに関してご意見、感想等ございますでしょうか。

はい、お願いします。

【林美香子委員】

林ですけれども、25番のところで、加工品の開発、素晴らしいなと思います。KPIも上方修正させていくというのは、すごいことだなと思うんですが、このようにたくさんの件数が出たというその背景といいですか、理由はどのようなことが考えられているんですか。

【事務局（山崎主任）】

背景につきましては、正直なところ聞いてはおりませんが、商工労働観光課というところが担当で行っておりまして、14品目のうち、12品目はそちらのほうで作っているところです。担当課からは「とれのさと」ですとか「道の駅」などを活用し、連携して進めたいというふうに考えている、と聞いているところです。

【林美香子委員】

ぜひこれは石狩の実になるビジネスに繋がっていくところだと思うので、その皆さんの気持ちの盛り上げ方も素晴らしかったでしょうし、多分良いアドバイスなどもあったんじゃないかなと思うので、また次に活かして行ってほしいなと思います。

【角川会長】

はい、高宮委員お願いします。

【高宮委員】

私も、最も関心持っているのが33番なんです。

それで、これはKPIも上げるべきじゃないのかと、ステップアップしていくべきでないかと考えていたんですけれども、これ80社というふうになっていますけれども。

そうしますと、ここは石狩湾新港地域でいいんですね、この企業連携推進課として全体の枠は、一社単位でみれば、ちょっとわかりませんが、地域としてどのぐらいの規模をまだ保有していると考えたらよろしいのでしょうか。

【事務局（小鷹部長）】

それでは、私のほうから。今、石狩湾新港で私たちがお相手にさせていただいている企業は、何十社かもちろんあるんですけども、そもそもの話でいいますと、今の新港地域の中で、大体3000ha、縦3km、横に10kmというところで、だいたい、もう今の分譲率というと、実は8割を超えているんですね。今後だんだん用地がなくなりますと、先細りしていきますので、新しい工業団地というか、産業団地みたいなものを作ろうということで、今委託事業をやっているんです。その中でどちらかというともう新港の中への進出企業は、そろそろ私たちが今抱えているところぐらいで、ここ10年ぐらいでは全て埋まってしまうだろうという予測は立てているところでございます。今の企業様の投資意欲というものが、コロナもあったのですが、非常に強くて、そこら辺を見越した中での数字になっているのかなというふうには感じてございます。以上です。

【高宮委員】

大変期待している場所で、宜しくお聞きしたいと思います。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。今部長がおっしゃったように、民間企業の投資意欲はすごくありますので、今ほんとにチャンスですよ。上向きにいろんなものをしていく中で、良い機会だと思っていますので、先ほどの林美香子委員のお話もありましたが、もちろん市役所も頑張っているんですけど、民間の方々も本当に今力を出してきているな、という印象はありますので、この上昇気流にどんどん石狩市では乗っていききたいなと、乗せていききたいなと思っています。

他いかがでしょうか。戦略目標4の方はいかがですかね。「『いろいろな顔』を作る」というところですが、例えば番号30番「高校生の雇用」という部分があると思いますが、人材採用、若者の人材採用は今結構話題になっているんですが、獅子内委員にお聞きしたいんですけども、新社会人の就職後の不安など、現場の声はどんな感じかなと思ってお聞きしたいと思います。

【獅子内委員】

連合北海道石狩地区連合の副事務局長をしております、獅子内と申します。実は私、去年も委員だったんですけれども、諸事情ありまして参加できなくてですね、今年度から参加させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

勤務先の会社で働き続けるに当たって不安を感じる部分、ということなのですが、基本的に多いのは人間関係、職場の労働条件、仕事内容や環境の変化に伴う生活面の不安という部分が挙げられているので

すが、やはり近年多いのは人間関係、不安というのが挙げられている部分でございます。

最近就職された方は、学生生活をほとんどコロナ禍で過ごしている方がほとんどなので、例えばアルバイトをあまりしたことが無いですとか、友達と旅行にも行けないとか、授業もオンラインで、友達と会う機会が少ないという状況でしたので、相談する人がいなかったり、仲間と一緒に働くっていうことに対して、不安がある方も一定程度いるような形となっています。また、管理者側からもそういう今でいうZ世代と言うんですかね、そういった方とどのようにコミュニケーションをとったらいいとか、どのように育成していったらいいのかというところで、お互いに悩みがあるということは話を聞いております。以上です。

【角川会長】

はい。ありがとうございます。入社もそうなんですけど、定着ですよ、特に若い人は。

私の経験で恐縮なんですけど、前、経営していた会社では、高校生をかなり新卒で採用していったんですけど、コミュニケーションなのか、お金なのかっていうことで、その両方が充実していれば一番いいんですが、どちらかが欠けてしまうと、すぐ転職してしまう、辞職してしまうんです。どちらかではないんですよ、今の子は。お金なのか時間なのかどっちかではないんです、両方なんですよ。そこをバランスよくってなかなか難しいんですけど、これが定着の一番の秘訣だなというふうに、私は現場で、肌で感じた次第なんですけどね。

他はいかがですか、3と4に関して。

4番のイベントとか、観光施設の入込とか、あるいは物産の振興が指標になっているんですけど、ここやっぱり観光協会のラインでちょっとお尋ねしたいんですけども、今回感染症対策が緩和されたことによって、観光客の受入とか、売行きですか、物産の。特に変わったことがあったか、あとは新しい取組があったら、ぜひご紹介いただきたいなと思います。

【野村委員】

観光客の状況なのですが、間違いなく増えているような感覚で私はいます。国内のお客さんもそうなんですけれど、最近は結構国外のお客さんが観光センターのほうに立ち寄って、結構道を尋ねていらっやったりします。ここ2年、3年、コロナ禍ではちょっと見られなかった状況かなと思って感じています。

あとイベントに関しましても、春に石狩灯台ですとか、本町地区でイベントを開催したのですが、その際もやはりお客様方が数千名いらっやるといような状況ですし、今後開催するイベントですとかもコロナ以前の状況で、例年どおりの規模感で行う予定でありますので、おそらく今まで抑圧されていたという部分もあるのではないかなと思うんですけども、お客様はかなりいらっやるのではないかなと思っております。物販関係イベントも、今年秋以降、道外に対するプロモーション等も行われる予定であります。コロナ禍以前の状況にまた戻っていったらいいなと感じております。

【角川会長】

ありがとうございます。そうなんですよ、今まで抑圧というか、抑えられていたのが何か一気にきたかなというところが少し見えて、例えば、イベントなんかも、地域の例えば先週今週ですか、いろんなお祭り、夏祭りやっていましたよね、すごく人来ていましたよね。こんなに夏祭りって人がいるのかな、というくらい凄かったので、やはりそういうところが一気に出てきているので、ここもまたチャンスというか、いろんなものを広げていくコミュニティも含めて、大きなチャンスだなと思っております。ですから、今こそ新しい商品だとか発想だとかアイデアとか。こういったものを出して、それを実行に移すというチャンスかなと思っております。

そのほかはいかがですか。

【高宮委員】

番号のですね、27と28です。

魚類の養殖に関係したことがあったので、このように、毎年林業水産課で放流事業をしているということに驚いたところなのですけれども、放流はしていますが、それが漁獲に跳ね返ってくるという、アウトカムというんでしょうか、そういったもののデータは何か出ているのでしょうか、という質問です。専門の部署ではないので、わかる範囲でと思いますが、よろしくお願いたします。

【事務局（宇野課長）】

このデータがどういうところに、どういう形で公表されているのかという部分については、後日まとめて、皆様の方にご回答を申し上げたいと思います。私も委員会や議会などでも、報告することもあります。例えば、秋鮭の漁獲ですとか、そういったデータを取って公表もしているものもありますので、確認させていただいて、ご回答させていただければなと思います。

【角川会長】

質問事項で、今お答えできないものについては、後日か、次回までに必ず回答いただくようお願いしたいと思いますので、よろしくお願いたします。

それでは、先に進めさせていただきます。

戦略目標の5、6です。こちら最後になりますが、こちらの方の説明を事務局よりお願いたします。

【事務局（山崎主任）】

次に「戦略目標5 誇りとなる『人や文化』を育てる」について、資料は10～13ページ、番号は43～55の13項目になります。

戦略目標5全体をとおして、担当課評価はSが3項目、Aが8項目、Bが2項目となりました。

44番「ファーストコンサート」は3年ぶりに開催となり、市内8校が参加したほか、「放課後すこやかスポーツ教室」をそれぞれ実施しました。

48番「スポーツイベント」につきまして、令和4年度は特にソフトボールイベントの開催が多く、計5イベント、600人以上の参加者が集まりました。担当課からは、今後も年3回程度のスポーツイベントが見込めるとの話があることから、KPIを「5年間で5件」から、「5年間で10件」に上方修正したいと考えております。

55番のKPI「ふるさと納税の寄附件数：5年間で7万件」につきましては、今期に、新たに追加した項目になります。ふるさと納税を、地域の関係人口を増やす有効なきっかけとしてとらえ、新たに設定したもので、令和4年度におきましても、順調に件数が伸びております。なお、参考までに令和元年度は5,389件となっております。

次に「戦略目標6 時代にあった地域として持続する」について、資料は13～16ページ、番号は56～65の10項目になります。

戦略目標6全体をとおして、担当課評価はSが3項目、Aが7項目となりました。

うち58番、59番は当市交通に係る目標であり、浜益区を中心に行っているデマンド交通の利用者数が引き続き好調で目標を達成したほか、市内オンデマンド、新港地域の通勤オンデマンドの実証運航を行い、公共交通の維持・確保、利便性の向上に向けた取組を続けております。なお58番「デマンド交通利用者数」について、担当課では、今後も一定程度の需要が見込めると判断しているとのことであり、KPIを「5

年間で6,000人」から、「5年間で10,000人」に上方修正したいと考えております

62番「遊休公共財産の効果的な活用・処分件数」の5年間で3件については、令和3年度は「旧厚田小学校」、「旧新港南浄水場」の売却を行い、令和4年度は「旧花畔市街浄水場」を売却したほか、旧適沢コミュニティセンターの利活用のため、ワーケーション実証事業を実施しています。

令和5年度におきましても、数件のプロポーザルを予定しておりますが、売却に至るかどうかは未確定となっております。目標値の見直しにつきましては状況を踏まえて検討したいと考えております。

私からは以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。戦略目標5、6ということなのですが、ご意見、ご感想等を含めてお伺いしたいと思います。はい。お願いします。

【林美香子委員】

55番「ふるさと納税」に関連して、これは札幌市内版の北海道新聞にも情報が出ていたのですが、ライジングサンの入場に関して、ふるさと納税で取り扱うというのは素晴らしいなと思いました。以前から委員会の中で、ライジングサンでもっと連携できないのかという意見がたくさん出ていた中で、時間をかけてきちんとふるさと納税にも入ってきたというのは素晴らしいと思いました。

ぜひ色々これから頑張ってもらいたいと思います。

【角川会長】

ありがとうございました。

ふるさと納税なんですけど、私も NFT ってあるんですけどね、Non-Fungible Token という非代替性トークン、ちょっと専門的な話で恐縮なんですけど、鑑定書みたいのがついているイラストみたいな感じなんですけど、ある自治体のものを買ったんですよね。いろんな発想があって、すごく面白くなって思いますし、モノとか食べ物とかだけじゃなく、今言ったらライジングサンだとか、いろんな広範囲に、ふるさと納税の範囲を広げていって非常に面白いなというふうに思っております。ぜひ石狩市らしいものを今後も考えていただければなというふうに思っています。

私からなんですけど、番号50番「地域おこし協力隊」について、これまでの地域おこし協力隊の活動を通して、地域の効果が良かった点や、そういったところよければ、白井委員にお願いしたいのですが。

【白井委員】

浜益の白井です。よろしくお願いします。浜益は、本当に過疎化がひどい状態になっておりまして、産業の中心となっている1次産業ですが、本当に全部手作業。漁業も果樹園だったり、以前に増して手作業が多くて、人が欲しい。夏場だけです。若い人呼ぶにはどうしたらいいか、ということ地域で悩んでいるときに、外からのいろいろ視線だったり、考え方を持って入ってきてくれる、そして、そこに定着してくれた地域おこし隊の人たちが、今、若い人を中心にまとめ上げてくれて、今日も七夕の子どものイベントを企画して、やってくれているはず。いろいろな今までまとまらなかった部分もうまくつなげてくれて、人と人をつなげてくれるので、どんどんこういう新しい考えと力をもっと浜益に欲しいなと思っています。以上です。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。

あと、戦略目標6の方も含めていかがでしょうかね。

では、河野さんいかがでしょうか。

ICTを有効活用する新たな行政サービスという項目もありますが、メディアの分野でももちろんご活躍されていますので、情報通信技術の活用だとか、あとリモート化も含めて、情報提供という観点からぜひお話いただきたいと思います。

【河野委員】

今、AIが問題になっていますよね。

今、白井さんがたまたま浜益の状況のことを、若い人たちの力でやっていくということで、期待するところではあるんですけども、現実やはり、デジタル化ということについては、若い人と高齢者との間の乖離があります。

このままにすると本当に世代の分断といいますか、年寄り諦める、若い人は見捨てる、じいちゃん、ばあちゃんがわかるわけないから、ということで近づいてくれないとか、そういうになるんじゃないかなということが私としては心配しております。

ちょっと関係してないかもしれないんですけど、新港のオンデマンド交通のことで、たまたま昨日、石狩湾新港にいて流通の会社で働いているドイツ人の人とお話ししてですね。日本語ペラペラなんですけど、オンデマンド交通利用できるのかって聞いたら、時期的に流通業界もすごく忙しいんですね、水の配送とかで。そうすると、徹夜はないかもしれないけど、結構夜遅くまで働くことになる。そういう時期の時間帯って言うんですかね、そういうのに合わせて、いろんな企業のそこにいらっしゃる企業の方たちの声を聞きながら、オンデマンド交通の方も本当にこれからずっとやっていってもらえるということにしてもらえたらいいなというお声をいただいておりました。

こんなところでよろしいでしょうか。

【角川会長】

広報いしかりの仕事を長年やられて、その世代間のギャップだとか、そういうのって何か感じることで、やっぱりありますか。

【河野委員】

身近な例ですが、割と今のお年寄りで携帯を持ってらっしゃる方が多いんですね。だけど、取材をするときに携帯から携帯にかけると、お年寄りはとても聞き取りづらいらしいんです。携帯から携帯だと、通話料も少なくてもいいんですけども、普通の固定電話から掛けなおさないとコミュニケーションが出来なとか意思疎通がとれないとか、身近な例で申し訳ありませんが、コミュニケーションがとりにくいということでは、デジタル社会だからこそ出てきたのかなと思うところがあります。以上です。

【角川会長】

私いつも思っているのですが、比較的若い世代が高齢の方に教えてあげるっていう、そういう場は絶対作るべきだなというふうに思っています。私も90歳になる父がいるんですけど、相当頑張って携帯使わせていますよ。大変なんですけど、でも、できるんですよね、しっかりやり方さえ教われれば、慣れればなんでもできる。そういった場面がもっと作ればいいなと思っております。

それとこの5番、6番でいけば、青年会議所とか、商工会青年部で活躍された住吉さんからもぜひ、お話いただきたいと思います。

【住吉委員】

昔少し夢を見たことがあります、青年会議所時代に。ちょっと内容とはズレるかもしれないですけど。子どもたちの給食あるじゃないですか。石狩産のお米と、石狩の鮭で作った鮭ふりかけ、毎回毎回出してもらって、石狩の小学校だったから、これが出たという思い出をずっと小学校6年間作ってもらったら、地域に帰属意識が芽生えるのではないかということを目撃したことがあります。戻ってしまうのですが、特産品のところを見たら、農産物ばかりで海産物が結構ないんですね。これ誰が特産品と決めているのかわからないんですけど、ぜひとも、浜益とかをつなげるためにも、海産物に商品開発してほしいなって、今言った鮭ふりかけを作っていたきたいと思っております。以上です。

【角川会長】

ぜひ住吉さん作ってほしいですね。株式会社イシカンの社長、この前ここにいた人とよく話しますよね、ぜひ実現をしていただきたいなと思って、すごく面白いと思います。

そのほか、いかがでしょうか。5番、6番に関してはいかがですか。

【高宮委員】

この5番、6番が企画課の交通担当、公共交通関係のことなのでちょっとお聞きします。

タクシーに乗った際に、タクシー運転手と話をしますが、運転手が明日も早く出勤するのだとおっしゃっていて、その理由は石狩湾新港と手稲を結ぶアルバイトの女性、働いている方々4人ぐらいを回って連れて行くためということなんですね。公共交通がなかなかないということですが、石狩湾新港がこれからはどんどん伸びていくとなると、今ここでもやられているオンデマンドもしくは域外とを結ぶ公共交通というものは当然として思案に出てくるのではないかと、この場には素晴らしい質問かもわかりませんが、そういったことについての何か考えがあるのかどうか。

【事務局（小鷹部長）】

それでは、私から。

先ほど河野委員からもありましたように、実は今、オンデマンド交通の実証運行をやってございまして、この9月から2回目の実証運行を始めます。こちら丸紅さんが特許をもってます、イスラエルの Moovit という会社のアプリケーションを使ったオペレーションになるのですが、こちらで石狩湾新港地域であったり、市民の方々の足を確保するんですけども、こちらは先ほど言われるように、なかなか今までの使いづらさってというのがあったものですから、9月からは新港で働く方もある程度ターゲットにしながら、土日も運行する形、あと、特に食品加工業なんていうのは、だいたい三交代ぐらいでやるものですから、それぞれの出番を踏まえた実証運行をまずやってみます。

これをしっかり、リアリティを持たせながら、次年度以降、市のほうでも皆様の足を確保できるように、どれぐらいの市の予算を持ち、この事業ができるのか、それを今検証しているところでして、非常に難しいオペレーションにはなりますが、今、皆様が言われるように新港というのは隆盛な状況なものですから、ここに投資をするのは市としての責務だろうということで、加藤市長の下に号令がかかってございまして、これをしっかりやっていきたいと考えてございまして。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。

それでは、ここでお二方、支店長様が来られていますので、それでは全体としてで構いませんが、地域の経済動向等、感じられていること等で構いませんので、それでは林俊樹委員から一言お願いいたします。

【林俊樹委員】

この総合戦略実績の内容、令和4年度の実績を、昨年と比べて見せていただくと、かなりランクアップしている項目があって、コロナ禍であって、これだけ色々取組をやられているんだなっていうことについては、ほんと素晴らしいなと思います。

それで私なりに、どの分野に当てはまるかわからないですけども、こういう形でもし取り組んだらどうなるかなと思って考えていたのですが、海岸沿いというか厚田だとか浜益だと景色が良いところが多くて、運転していても非常に気持ちがいい状況なんですけども、この自然環境っていうか、景観をうまく利用できないかなと思って。

例えばオートキャンプ場みたいなものとか、コテージを作ってますね。実際に夜の食事もコテージで、例えば鮭のちゃんちゃん焼きとか、石狩産100%の食材を準備して、食事付きのコテージ利用というようなものを掲げて、市で運営されたら、道内の地方の方が、結構利用されるんじゃないかなと思います。リピート客もたくさん出てくるのではないかなと思いますし、特に夏の季節はそういうコロナ禍で、そういうアウトドア系が非常に盛んになりましたので、そこをうまく利用して、そういう活用方法したら、もっと地方から人をどんどん呼び込めるのではないかなという感じがしたのが1点。

それと石狩は、藤女子大学がありますので、例えば、講義、授業ですね、講義の中に、例えば石狩市の授業を組み入れるということで、例えば市の課の方々毎週だったり講座を開いていただいて、生徒さんにとっては、聞いたら例えば単位を取れるというような仕組みをとって、積極的に石狩の歴史なりそういった石狩の今後のことを、そういう若い方々に聞いてもらって、勉強してもらったら、もしかしたら、将来勤めるときに、石狩市で働きたいなという人が出てきたりとか、そういうことがあって、そういう戦略も一つあるのではないかなという感じがしました。

それと資料3で、石狩市が好きと感じる市民の割合や、石狩市に住み続けたいと思う人の割合は、かなり高いパーセンテージが出ています。今、どこの地方へ行っても、人口がどんどん減少している状況にありますので、小学校だとか、中学校、あるいは高校生、大学生も含めて、定期的なアンケートをとって、どんな意見でもいいから、とにかくこうしてほしい、ああしてほしいという要望書とかそういうものもアンケートと組み重ねて、もしそれが実現してくような状況になれば、例えば、今小学校中学校の子どもさんたちが将来は石狩にずっと住んでいこうとかそういったことになっていけば、人口減少の歯止めもきくのではないかなということを考えていました。ぜひ子どもたち、若い人たちですね。ちょっと意見なんか、どんどん取り入れてったらいいんじゃないかなと思います。

あと、全体的に石狩市と言ったら非常に広いので、何月何日は石狩の日と決めてしましまして、全体でお祭りごと、今日は石狩の日だよと、積極的にできればいいなということで、具体的にはどうするこうするっていうのはないですけど、石狩はとっても将来楽しみな話がたくさんある中で、こういったものも取り入れていったら更に発展していけるのではないかなと、勝手にわたしは考えています。何か参考になればと思います。よろしくお願いたします。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。いろんな前向きな提案ありがとうございます。それでは中野委員も願いたします。

【中野委員】

中野でございます。よろしくお願いたします。金融からの見方ということで、まず非常にたくさんいろんなことをしっかりとやられていて、ほんとに順調に進んでいるのではないかなというふうに思っています。

そのなかで、新港の話で、新港の企業誘致もどんどん進んでいっているんだと思いますけれども、やはり最後は人、雇用の確保の問題になってくるのですが、私は実際にお客様と回っている中での実際の話の中で雇用の際に、今就労したいという方、いろんなサイトを見て、会社を選ぶのですが、「札幌市」と検索をかけるんですね。要はどこ会社ではなく、「札幌市」で検索をかけるので、この瞬間に石狩市の新港にある企業は出てこなくなってしまう。石狩市の新港には非常にいい企業さんたくさんあります。私もいろいろ財務だとかも拝見させていただけますし、やっている事業なんかを見た中で、非常に素晴らしい企業さんたくさんあるんですけども、要は集まらないのは、さっき言った札幌市ってくっちゃうからです。これきっと何とかしなきゃいけないんだろうなと、これはきっと企業単独での取組ではどうしようもできない部分だと思うので、これ一つもしかすると、こういう機会の中で何か考え得る、検討し得ることなのかなと思います。もう一つ、交通の部分は絶対出てくると思うのですが、交通の部分は先ほどお聞かせいただいたので、そのような形で対応されているのだと感じたところです。

これが1点で、2点目は人の部分です。ほんとサステナなんですよ。人の教育っていうようなところがいろいろあったんですけど、私は金融の立場なので、いわゆる金融リテラシーという、市民の方や従業員の方も含めて。実は日本の金融資産 5000 兆円かな、そのうち半分以上が「現預金」となっています、というのがよく政府の発表でもあると思うんですけども、一般家計、個人の金融資産の割合が一番少ない都道府県はどこでしょうというふうに質問すると、実はうちの職員も沖縄県などと答えたりするのです。意外と北海道と答えないので。それは大きい札幌市という消費地があるから。でも、実は答えは北海道です。北海道民が一番金融資産を持っている額が少ない。これでいくと、今これだけインフレになっていて、金融資産が一番少ない道民が、これ道民なので石狩市民も入っていますが、このまま行ったらときに、20 年後、30 年後、本当に老後になったときに暮らしていけるのかという、これきっと暮らしのサステナの問題だと思いますね。

そういう意味でいくと、実は私もそうですが、金融勉強って学校で受けていないのです。たまたま銀行員になったので、金融の知識を持っているというだけです。なので、そういうのは人づくりや、石狩市の今後の発展のためにあっていいのかなと思います。実は、さっき言った金融リテラシーが、高い人ほど、個人、自分のキャリアだとか、自分の能力に対する意識、向上させようという意識が高くなるって言われています。そして、例えば、企業でいくと、金融リテラシーの高い人ほど、その経営というか、マネジメントする方への意識を持つようとする方が多くなると言われています。なので、やはり最後は人だと思いますので、そういうふうに見ていきますと、さっき言った金融の立場からいくと、金融リテラシーっていうところの人づくりっていうことであれば、そういうのもあってもいいのかなと。もし、そういうところで、あの手前どもですとか、いろいろご協力できることもあるのかなというふうに感じております。以上です。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。金融リテラシーですね。私も 50 歳過ぎてから勉強しているんですよ。でも、ほんとに市としてもそういう取組があってもいいと思いますし、もう年齢は関係ない、より若いほどいいと思いますので、子どもの小中学生の教育の中にも取り込むべきだなと、そういう動きも見えますけど、まだまだ日本はそこらへんが遅れているなと思いますので、そういう観点からも非常に勉強になりました。ありがとうございます。

最後なんですけども、全体を通して、石狩管内をはじめ、道内の他自治体の（取組の）動向など、北海道石狩振興局地域創生部矢野部長にも、ご感想でもいいのでお伺いしたいと思います。

【オブザーバー（北海道石狩振興局地域創生部矢野部長）】

石狩振興局矢野です。全体的に、ということになりますと、今回、国の方でもデジタルのほうを進めて

いくところが中心になっていて、次期もそこを中心に回っていくことになると思うんですけど、デジタル化、先ほどお話にもあったとおり、ちょっと高齢者の方にはなかなか使いづらい部分があるというのは、音に関しては確におっしゃる通りだなと思ったんですけど、逆に例えば、視覚でいうと、指2本で文字を大きく出来るというところで、デジタルの課題と良いところと、両方あると思います。デジタルの利点を伸ばしていきながら、使い慣れていって、どんどん普及していき、より便利に距離感も近く感じられるっていうところがありますので、デジタル化の方を進めていただければと思うところです。

行政サービスからまずデジタル化がされていると思うんですけど、道庁もデジタル化で、一人一パソコンで、いろいろやっているんですけど、確かに若者は小さいころからもうパソコンとか使い慣れている、スマホに使い慣れているんですけども、年配の方は、パソコンは確かに使っていたことあるんだけど、ネットワークのほうがあんまり詳しくなかったりします。色々とお互いの使いにくさっていうのがあるんですけど、やはり便利なところもどんどん出てきているところなので、これからデジタル化に向けて色々課題を整理しながら進めていきたいと思っているところなので、石狩市さんのほうも一緒にやっていただければと思うところです。以上です。

【角川会長】

はい。矢野部長ありがとうございます。

以上ですね、戦略目標1から6まで65の事業の点検評価ということになるんですけども、最後に言い残したことや確認したいことがありましたかお聞きします。

【河野委員】

私、石狩って言ったときに、石狩のどこを見るかによって、地域によって差があるんだろうと思うんですよね。例えば、花川あたりと浜益と言ったら、まったく課題が違いますよね。

例えばですけども石狩湾新港と言ったら、もう本当に石狩の中心で、これから伸びる経済の中心だけど、そこにはいるのは人であって、人がやはり石狩を愛してくれて、そこに働きに来てくれる人が、石狩の市民であってほしいわけですけども、それを作るときにやはり石狩市全体の中に、例えば浜益からでも通えるとか、石狩湾新港にですね、今の殆ど札幌市、例えば西区や手稲区だとか、そういうところから新港に通ってくる社員も結構いるわけですね。それではつまらないっていうか、石狩のやっぱり魅力を作っていかなきゃいけない、みんなわかっているんだろうと思うんですけど、一番ネックなのは私やっぱり冬なんだと思うんですね。冬を考えるとときにも、もちろん交通ありますけれども、観光についても考えなければいけない。

先ほど白井さんが、人欲しいのは夏だけなんです、と言われました。忙しいのは夏ということですから、ここ冬を何とか、厚田、浜益、石狩中心部、それを合わせて、何とか冬ということを考えていくことが、結局は経済の発展にもつながるのではないだろうか、例えば、極端なことを言いますが、浜益で冬の湯治ができるような場所に何とかできないか、どうしたらあの吹きすさぶ浜風の中で湯治できるだろう、逆転の発想してもらって、それをしたら、そこに魅力ができて、新港で働きながら石狩に住んでいるっていうのは、いいなと。例えば浜益は冬の別荘地みたいな形で使ったっていいじゃないかみたいな、そんな逆転の発想ができるような考えにならないだろうかというふうに思いました。すいません、まとまりませんが以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。

【白井委員】

熱く語ってくださって、ありがとうございます、浜益も去年、鮭だけで一つの会社で3億円利益が上がって、その前は2億円上がっている、そして、果樹園なども非常に活発にやっているところもあるので、資質はすごくあるんですよ。

それをどう生かしていただけるか、個々ではなくて、やはり地域として盛り上がるために、どうしたらいいのでしょうかってお知恵を拝借に私は出てきているつもりなので、よろしくをお願いします。以上です。

【角川会長】

はい、ありがとうございます。石狩市全体を考えてのということで、長年の課題ではあるんですけど、今伺ったその冬のっていうことは、大きな石狩の特徴の一つですし、それで生活している我々市民は、大変は大変なんですけど、それを逆に活かすってこと、例えば今行えない石狩冬まつりですか、冬まつり関係一切今ないので、そういったものも。市役所の皆様方にご協力いただきながら復活できればなって私は勝手に考えております。

はい。すみません。まだまだご意見あると思うんですけど、まだ次回以降ありますんで、今回はここで1回締めたいと思います。

それでは、今の65項目、様々なご意見いただきました。駆け足で大変申し訳なかったのですが、改善見直しの意見はございますか。

【住吉委員】

僕自身のすみません、自分の意見かもしれないですけど、KPI すごく大事だと思うんですけど、このKPIの数字の決め方がちょっとなんとなくボヤツとしているので、達成したかどうかの評点っていうのは反映されているのですが、この「S」とか「A」とか「B」に。

そうだとしたら、この何て言いますか、達成度合いに対する評価もなんとなく書いていただく、こうやったから達成したとか、そういうのが文字になってくれると、このKPIだけ見ると、数字を達成してないのになんで、「A」なんだって、最初にやられたとおり、その達成度合いが記載されていると、たぶんこういうところで達成しているからKPIはこの評価なのだと、書いていただくと大変見やすいと思います。すみません、次回以降書いていただくと助かります。以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。ご意見必ず反映させて、また、ただし書きというか補足をよろしく願いいたします。

それではもう、評価自体に関してはよろしいですか。

< 質問無し >

【角川会長】

それでは、本懇話会として、第2期総合戦略の取り組みにつきましては、「Aの担当課の評価どおり」とさせていただきますので、よろしく願いいたします。

お時間も過ぎておりますので、以上で令和4年度の実施事業の点検評価を終了いたします。次第4 その他ですが、そちらは何かございますでしょうか。

< 質問無し >

【角川会長】

それでは事務局からお願いします。

【事務局（芳賀主査）】

ありがとうございます。それでは事務局から3点ご連絡いたします。

1点目、本日ご議論いただき、Bの改善・見直しが必要とされた事業につきましては、懇話会のご意見を踏まえ、担当課と協議のうえ、評価や今後の方向性について、本部会議にて決定し、後日、皆様にご報告させていただきます。

2点目、本日の会議録についてですが、事務局で作成し、会長にご確認いただいた後、皆様に配布いたします。

3点目ですが、冒頭でも少しお話いたしました2回目の懇話会は、市内を視察するフィールドワークを予定しており、あらためてご連絡させていただきますので宜しくお願いいたします。

私からは以上です。

【角川会長】

ありがとうございます。

今回は、フィールドワークということで、私が毎回楽しみにしているのですが、いろいろなところに現地視察して現場の様子を見るという会になりますので、ぜひご期待いただきたいと思います。

それでは第1回の石狩市総合戦略推進懇話会を終了いたします。

令和5年 9月 1日 議事録確定

石狩市総合戦略推進懇話会 会長 角川 幸治